（6）一握の砂と東日本大震災　　谷口　宏一

一握りの砂が震災の被災者の方とﾙｸｾﾝﾌﾞﾙｸの方との縁を繋いだ体験談です。

発端は約10年前の夏、ﾙｸｾﾝﾌﾞﾙｸ公国から「皇太后少女合唱団」が犬山での音楽交流にやって来ました。付き添いの中で、一組のご夫婦（Ｓ氏）に我が家に数日滞在して頂き、鵜飼、お茶、浴衣など、日本文化の紹介や立山までの一泊旅行を一緒に楽しみました。帰国後もメル友を続け、X‘mas　Cardはもとより家族の誕生日プレゼント交換などを続けて来ました。一昨年、息子がドイツに行った時は、隣国なのでお宅を訪問し歓待を受けて来ました。

一昨年10月Ｓ氏から、展示会に出すので日本の砂が欲しいと言って来ました。たくさん集めて上げようと思い、犬山はもとより、富士山、鎌倉由比ガ浜、淡路島などの名勝地の砂を集めてお送りしました。その中で、有名な松島の砂も手に入れようと企て、全くの飛び込みでしたが、東松島市の観光協会にお願いのメールを送りました。その事務局のＯ氏が快く引き受けて下さり、小学生の娘さんと一緒に海岸で砂を取って送って下さいました。そして、ご自慢の美しい海岸の写真を手紙と一緒に送って下さいました。そのお手紙を翻訳し、展示用の文を作り、風景写真と一握の砂をＳ氏に送りました。Ｓ氏は、一挙に日本各地の砂が手に入り大変喜んで頂けました。もちろん、その喜びの様子をＯ氏にもお伝えしました。

そして３月１１日（何と私の誕生日）にあの震災です。東北在住ですぐ気がついた方が二家族ありました。一人は犬山で自然保護の仲間だった人ですが、手紙を出したらすぐに無事だと電話が来ました。ところが、東松島市のＯ氏にすぐ出したメールには、ずっと返事が無く、テレビでは、その地区は壊滅的と言う報道が出ていました。

追っかけて手紙を出してみましたが、返事がありません。そこで、パソコンを開いてネットで安否情報や最悪の場合の名簿なども調べている中に、ＮＨＫの避難者名簿の中に名前を発見し、八戸の小学校に居られることを掴みました。

早速、返信用封筒を入れて手紙を出しましたが、宛先人不在で間もなく戻って来ました。再度ＮＨＫの名簿を調べましたが、まだそこに居ることになっていました。なかなか、個人別にその動きを把握するのは困難な状況なのだろうと理解しました。

これ以上どう探すかと思案に暮れていましたところ、４月18日になって、Ｏ氏から「３月１２日付の貴方のメールを見ました。」との連絡が入りました。すぐに、返事を書くとともに、ﾙｸｾﾝﾌﾞﾙｸにも知らせて喜びを分かち合いました。

そして、焼け石に水でしょうが、お見舞い金を添えてお手紙を送りました。

しばらくして手紙が来ました。家は流され、ご家族は無事でしたが中学一年の娘さんは親戚に、ご両親もばらばらに避難所暮らしをしている。幸い元の職場に

戻ることは出来たとのこと。手紙には、以前と同じ所で撮った写真を添えてありましたが、あの美しかった海岸があまりにも変わり果てた画像でした。（下図）

当初からＳ氏が「何か自分に出来ることをしたい。」と言っておられましたので、「Ｏ氏宛にお見舞いと激励の文を書いて下さい。」とお願いしました。そして、先日、それがメールで送られて来ました。中には「しばらく落ち着くまで、ﾙｸｾﾝﾌﾞﾙｸの自分の家に避難して来てもらっても良い。」などの優しいお気持と励ましの言葉が詰まっていました。中でも、座右の盟にしている自作の言葉がある。即ち *"There is life, and where life is, there is hope, and where hope is everything is possible".*と書いてありました。これもすぐに、訳してＯ氏にお送りしました。

そして、ごく最近、Ｏ氏より「Ｓ氏に送って欲しい。」とのお手紙が送られて来ました。中には「最初は大ショックだったけれど、多くの方々の暖かい気持を知ることが出来て前向きに復興に邁進する気持ちになり、中でも外国の方からお手紙を戴いて感激し、益々その意を強くした。」と書いてありました。

大きな被害を受けられたとは言え、ご家族がご無事で、職場があると言うおかげを受けられて、良かったと思います。

それこそ「一握の砂」のご縁でしたが、Ｏ氏が、砂に込められた親切な心がルクセンブルクの人と日本の人の心を繋がれたことになります。

仲介役の私としても嬉しい限りです。まだまだ続く復興期間、Ｓ氏と一緒にずっと見守って行き、支えになって上げたいと思います。　　終

蛇足；正式には、ルクセンブルク大公国ですが、フランスとドイツに挟まれた神奈川県ほどの面積の国です。金融業と鉄鋼業などで栄えており、一人当たりＧＤＰは世界トップクラスです。現存する「最後の公国」とも言われ公爵が行政権を有する立憲君主国で、日本の皇室とも交流があります。

震災前の東松島海岸

震災後（山の形から場所が分かる。）